

第2回 橿原市市有施設再配置検討審議会 会議録

日 時	平成 29 年 7 月 11 日（火） 13：30～17：00	
場 所	大和信用金庫八木支店 3 階第 3 会議室	
出席者	委員	赤崎会長、藤原委員、植田委員、北浦委員、米田委員、榊谷委員、北委員、森本委員、岩田委員、崎山委員、前川委員、細川委員、小川委員、本塚委員、安村委員
	事務局	西田政策審議監、中西総務部長、高井総務部副部長 資産経営課：黒田課長、新田課長補佐、米田課長補佐、河合係長、原田主査、河野主査、里中事務員 長大：岡庭、木原、木戸口、古川、田口
欠席者	委員	なし
資 料	第 2 回	橿原市市有施設再配置検討審議会 次第
	資料 1	橿原市の人口推計
	資料 2	橿原市の財政状況
	資料 3	「公共施設等総合管理計画の実現に向けた施設分類別の基本的方針（素案）」策定の考え方
	資料 4	ワークショップ実施要領（案）
	資料 5	施設評価整理表（案）
	補足資料	施設分類別基本的方針策定の流れ
	当日配布	橿原市公共施設等総合管理計画と関連計画
	当日配布	橿原市人口推計の補足資料
	当日配布	橿原市都市計画マスタープラン 概要版
1. 開会	開会	
	審議会委員の変更および紹介	
委員	開会挨拶	
	<p>「公共施設等総合管理計画の実現に向けた施設分類別の基本的方針」を審議し、市長へ答申することが本審議会の目的である。</p> <p>公共施設は立地適正化や都市計画だけでなく、福祉、教育、環境、災害などにも関係することがある。私たちが審議し、答申した後、公共施設等総合管理計画をどのように運用されるのかについて、説明をお願いしたい。</p>	
事務局	<p>橿原市公共施設等総合管理計画と関連計画の概要説明</p> <p>【当日配布 橿原市公共施設等総合管理計画と関連計画】</p> <p>資料「橿原市公共施設等総合管理計画と関連計画」では、真ん中に「公共施設等総合管理計画」があり、その周りに、立地適正化、都市再生、学校・教育、子育て、広域連携、環境、防災、医療・福祉、住宅、地域公共交通等があり、それぞれが関連していることを表している。今後、いろんな計画と連携しながら、公共施設の延床面積を 40 年間で 20%縮減する。</p> <p>40 年間で 20%ということになると、年間 4 千平米の施設を減らしていく必要がある。これを機械的に減らしていくという訳ではない。地域の公共交通、医療・福祉、防災、子育て、といった様々な市民生活に密接に結び付いた問題であり、市民の皆さまにも痛みを伴うことである。</p>	

委員	<p>今回、皆さまに審議をいただき、施設の分類別基本の方針は、今後の行政運営にも、また市民生活にも非常に大きな影響を及ぼし、非常に重要な内容であるため、様々な観点からご審議いただき、市長に提言していただきたい。</p> <p>続いて、「施設分類別基本の方針策定の流れ」についても説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>施設分類別基本の方針策定の流れの概要説明 【補足資料 施設分類別基本の方針策定の流れ】 審議会は真ん中の列の部分になっており、本日が第2回に当たる。今後、この会議については、2回から6回までを予定しており、その間に市民参加型のワークショップで市民意向の把握をし、いただいた意見を第3回審議会のほうにフィードバックさせていただきたいと考えている。 流れとしては、ワークショップでいただいた意見、市民のニーズについて、庁内の委員会でも検討させていただくとともに、この審議会にも意見をまとめたものをご提示させていただき、ご意見を頂戴したいと考えている。</p>
委員	<p>「施設分類別基本の方針策定の流れ」は、ファイルの一番はじめに綴じておいていただくと、本日の審議内容を確認できるので、ご理解いただきたい。</p> <p>以上は、まだ審議に入る前の説明であるが、ご質問はないか。</p> <p>(質疑なし)</p>
2. 議題	<p>議題(1) 前回の審議会での検討事項 について</p>
事務局	<p>・榎原市の人口推計について 榎原市の人口推計について説明 【資料1「榎原市の人口推計」】 【当日配布「榎原市の人口推計の補足資料」】</p>
委員	<p>どの資料を見ればよいのか。口頭で説明されても分からない。要点を説明してください。</p>
事務局	<p>特徴のある傾向としては、耳成、畝傍、真菅地区の3地区は年少人口、生産年齢人口が減少し、老年人口が増加する市全域の傾向と同じとなっており、今後、住民の高齢化が進んでいく地域であると推測される。 人口が少ない多、香久山地区の2地区は主要な駅から少し遠いことや、市街化調整区域が多いことから、人口流動が少ないと予想され、構成年齢に関係なく人口が減少していく地区であると推測される。 年少人口が増加し、生産年齢人口、老年人口が減少している白樫、新沢地区では、生産年齢人口全体の減少率に比べて、30歳から40歳の子育て世代の減少率が比較的少ないことから、子育て世代の流入はあるものの、子育てが終わると転出する方が多いと推測される。 榎原市では今後40年間で約14.2%の人口が減少すると見込んでいる。これは様々な施策を行い、人口減少を抑制した上での目標数値となる。その中で、年代別に見ると、市の歳入に影響を及ぼす生産年齢人口が28%減少と、大幅に減少し、全人口に占める老年人口の割合が34.2%に増加するなど、税収の減少により収入が減少する一方、社会福祉関連経費の増加に伴う歳出の増加が予想され、今後、財政運営がより一層厳しくなると考えている。また、地域によっては、人口や構成年齢の差が生じ、市民ニーズや必要な行政サービスも違ってくることが見込まれ</p>

	<p>るため、今後、施設の適正配置を考える上では、市民ニーズを把握し、市民に必要な施設を判断することが求められる。</p>
委員	<p>どのように我々はそのことを認識すればいいのか。認識できないと、次の議論はできない。どの地区にどんな問題があるのかということについて、資料を揃えていただきたい。</p>
事務局	<p>資料を作成し、委員の皆さまに送付させていただく。</p>
委員	<p>「まち・ひと・しごと創生総合戦略」での将来人口推計は、市の行政努力で人口を伸ばすことが前提になっているが、地区別に人口増を想定しているのか。</p>
事務局	<p>「まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「人口ビジョン」では、市全体の取り組み・市全体の人口推移を定めたものであり、各地区の取り組みを反映させたものではない。市全体での努力目標で、それを成し遂げれば、この数字がキープできるのは市全体での話である。</p>
委員	<p>地区割り図は変えない前提で私たちは議論するのか。</p>
事務局	<p>地区・地域は重要なテーマではあるが、審議会で議論するにあたり、地区そのものが決して不変ということは望んでいない。自由な議論をお願いしたい。</p>
委員	<p>高齢化率は一般的に 40 年後には 40% 台に達するとマスコミなどでも報道されている中、橿原市の人口推計は 34% になっている。約 5% の差があるのはなぜか。</p>
事務局	<p>橿原市がいろいろな取り組みを行うことにより、橿原市に転入していただく。実際には子育て世代に転入していただくことがメインになる。転入していただくという観点で、優良な納税者が橿原市に来ていただければ、市も潤い高齢化率についても下がるのではないかとメインの事業になる。そのためには、橿原市の知名度を上げたり、観光事業を頑張ったり、人の交流を増やし、定住人口の増加を図っていくというのが主な内容となる。</p>
委員	<p>地区別に数字がでていますが、この地区別の計算根拠の中に、ある地区ではベッドタウンで大阪あるいは市外の仕事をされている方々がたくさん居住している。ある地区では農業従事者、ある地区では工場周辺など、そこに住まわれている理由というものがある。その環境によって、人口の増減の影響を受けてくると思うが、そのような分析はあるのか。</p>
事務局	<p>資料 1 の 13 ページの白樫地区は、平成 3 年に開発された地区で、全体的に人口減少、生産年齢人口、高齢人口も下がっていくという地区。開発された際に転入された世代がそのまま残り、その子が転出された結果、高齢化の割合が高くなりつつ、人口減少していくという分析をしている。</p>
委員	<p>表、グラフはとても大事ではあるが、それは何を意味するのか、委員に示していただきたいので、追加資料をお願いします。</p>
事務局	<p>了承。</p>

事務局	<p>・橿原市の財政状況について 橿原市の財政状況について説明 【資料2「橿原市の財政状況」】</p>
委員	<p>今後、議会や住民と再配置の検討を行っていく中で、橿原市の財政状況を共有することが非常に重要となってくる。 全国の自治体では、交付税等の「依存財源」が大幅に減らされることから、いかに「自主財源」だけで経営を行っていくかという検討が進められている。 現在の市民税は61億1千300万であるが、今後、歳入の中で市民税がどのように減っていくのか。また、高齢人口が15.79%増えれば、歳出の扶助費は99億3千900万からいくら増加するのか。歳入・歳出のシミュレーションを人口推計のように5年度ごとに作成することは可能か。</p>
事務局	<p>財政計画を5カ年刻みで立てており、平成30～34年度までの5カ年計画を次期3月議会において説明することで、議会の理解をいただいている。よって、議会で説明するタイミングであれば、当委員会にも5カ年分の計画の情報提供が可能である。 しかし、住民と財政状況を共有する必要性については十分理解できるが、この計画のベースとなっている40年間のシミュレーションは相当難しい。特に、市民税と扶助費については予測が立て難く、長期計画を立てると驚異的な数字が計算上出てしまう。扶助費に対する国の制度も変わることも予想される。このような中、現行制度の中で加速度的な伸びだけを見て長期計画を立てることは、現実から乖離する結果となってしまう。</p>
委員	<p>基本方針を考えていく上で、今後の財政状況の把握が非常に重要となってくるので、ある程度先まででも計画は立てられないのか。議会側は、来年、再来年の予算で良いと言われているのか。</p>
委員	<p>各種計画もあり、公共施設を40年間で約20%縮減させる目標がある中で、財政状況を見ながら、どういう方法があるのか議論する上でも、5年毎に財政計画を提出し、今後のあり方検討を議会に報告していただきたい。</p>
委員	<p>5年間は出せるのか。</p>
事務局	<p>3月まで待っていただければ、5年間の計画は出せる。</p>
委員	<p>それについては理解した。 本審議会では、施設分類別基本の方針の検討が中心であり、併せて財政をどう考えるかは当然議論することである。 従って、今後も財政状況の議論は継続する。どのようなシミュレーション作業を事務局に求めるかについては、しばらくお考えいただきたい。</p> <p>《休憩》</p>
事務局	<p>議題(2)「公共施設等総合管理計画の実現に向けた施設分類別の基本の方針(素案)」策定の考え方について 施設分類別の基本の方針(素案)説明 【資料3「公共施設等総合管理計画の実現に向けた施設分類別の基本の方針(素案)」策定の考え方】</p>

委員	今の説明であれば、施設分類別基本の方針と財政計画は無関係のようにも聞こえるが、その考えでよいのか。先ほどまでの財政の説明は何だったのか。
委員	先ほどの財政の議論の中で、一つの前提が共有されたかと思う。その前提の下、基本の方針策定に係る検討の視点がある。 そういう面でいうと、資料3の1ページ目の表に今の財政という問題も含めて入れていただければ、枠組みとして成り立つと思う。
事務局	資料3の1ページの公共施設等総合管理計画の中に、40年で20%縮減と記載しているが、この背景に財政の厳しさや人口減少の問題を包含していると捉えている。
委員	大前提にあるのは、総量の面積20%縮減を目標としていることなので、とにかく面積20%縮減を目標にしながら、できる事はないのかということを生懸命探し出すことだと思う。つまり、統合等をした後の経済効果・財政効果がどこまであるかということ積み上げるシナリオを持っておく必要がある。
委員	次の議論であるワークショップの資料を見ると、スタートポイントが40年間で20%縮減になっているが、市民はなぜ20%縮減なのかと疑問になると思う。そして、話が現実になって、1つの施設を縮減すると決まったら、急に自分の問題となり、なぜ自分の地域にある施設を減らさなければならぬのかと思うのである。要するに、スタートを間違えると市民は対応できないので、このワークショップや施設評価の前提として、市の将来の財政が危ういことをまず説明する必要がある。よって、40年間20%縮減は策定したものの、ここがスタートという話ではないと思う。 そういう意味で、今日の財政だけでなく、将来の財政を上手く共有することが大事で、そこさえ上手くいけば、適正化配置計画は具体化できると考える。
委員	この大きなフレームに財政が入っていないのはとても気になる。私たちが議論する場合、どのように認識すればよいのか。
委員	40年間で20%というのは、これはこれで数値として出ているわけである。一方で、それぞれの施設が毎年どれだけ財政負担を支出しているかというリストを作ってくださいと、20%の議論と財政の問題が、両方で上手く見えてくるかと思う。 例えば、利用者が減少しているが財政負担が少ない施設と、利用者は減少していないが非常に財政負担が大きい施設などもあり、面積削減と財政を同時に見ていると、結局、財政の問題と今の20%削減が繋がらない。なので、1つの資料として作成していただくと、財政の問題と20%削減という議論が、市民から見てもわかりやすいと思う。
委員	市で実施している施設評価について、資料3の1ページの「施設の課題の把握」の3つ目に「管理運営費の人件費割合を50%超え多大な経費を要している。」とあり、これは人件費の問題だが、そもそも図書館を運用する経費には、建物を維持する経費等もあるわけだが、その資料も持っているのか。 部内で行われる施設評価を、財政との関係で見るとは予定されているか。
事務局	庁内組織である「公共施設等総合管理計画推進委員会」で施設評価を実施している。その施設評価については、施設の運用経費、管理経費というコストがどれぐらいかかっているか、利用者数がどれぐらいあるか等を見ながら、評価を実施している。つまり、施設ごとのコストはどれぐらいかかるかというデータは持っている。その評価結果が様々な課題として、コストが高い施設や利用者数が少ない

委員	<p>施設に対して、もっと促進を図っていただくというような評価をしているところである。その評価の結果の概要については、後ほど議題4にて説明する。</p> <p>資料3の2ページ目の「基本の方針の策定に係る検討の視点」で4つの視点が書かれており、その中で「公共施設の必要性の検討」とある。ここには施設の設置に関する法的な義務はないということで書かれているが、施設というのは、当初は目的を持って設置しているわけだが、今は設置目的通りに使われていない施設というものも、結構ある。</p> <p>施設分類別の基本の方針を策定するにあたり、施設の設置目的という視点から、目的どおり使用されていない場合には、市民の理解を得てその施設はもう除却しても問題ないはずだという議論をすることになる。なので、施設の設置目的との関係でも、公共施設の必要性の検討を見ていただくといいのではないかと思う。</p>
委員	<p>ワークショップも関係し、庁内の推進委員会の施設評価とも関係するので、この議論は一旦保留とし、ワークショップや施設評価の中で再度審議する。</p>
事務局	<p>議題（3）ワークショップの運営について ワークショップの運営について説明 【資料4 ワークショップ実施要領（案）】</p>
委員	<p>都市計画マスタープランの地域区分でワークショップをするにしても、地区が分断しているところがあるため、地区の特性・考え方が2つに分断されてしまう。このマスタープランについて、こういった考えでこのような5つの地域を割くような割り方をしたのか。</p>
事務局	<p>今の都市計画のマスタープランは、平成21年につくったものである。これを元に都市計画をつくっていくという区割りをしている。将来、こういった道をつくっていくか、そして、このような地区割りで土地利用を決めていくかという大きな計画になっている。</p> <p>確かにこの区割りを見ると地区が分断され、5地区に分かれている。これは10年ごとに見直しをするということで、今年から見直しにかかるようになっている。次回は32年であり、いろんな意見を聞きながら作成する予定。その中で分断されている所はどうなるのか。全体としてまとめていかなくてはならないという考え方がある。そこを正しく説明できるようにする必要があると思う。</p>
委員	<p>都市計画マスタープランは、土地利用や都市構造を決めるため前提となるもので、地域区分をこうした。</p> <p>都市計画マスタープラン(概要版)8ページに書いてある、地域の特色とテーマというもので括れるからそうしたと思う。</p>
委員	<p>なぜこういう区割りで地域を分断したのか。これについては今、説明を初めて聞いたので分かったが、この計画のままでワークショップをなぜするのか教えてほしい。</p>
事務局	<p>ワークショップについて、今回、全6回を計画したが、アイディアはさまざまなものがあつた。例えば、市を4つに割ることや、11地区でできないのだろうかとかさまざまな議論をした。実現可能な回数で考えれば、ある程度、地区は分断してしまうが、何かの括りでやらなければならない。そして、檀原市には都市計画があり、その5つの括りであれば、全体のまとめも入れて6回で可能ではないかということである。</p>

	<p>参加するワークショップのメンバーへの配慮やさまざまなことを総合的に考えて、正直に言うと、物理的な回数が可能なものに収まって、最後まで見てもらえることが可能なためには11地区全部は無理という、苦渋の判断として考えたのが今回の提案になっている。</p>
委員	<p>都市計画マスタープランを見直しするということになっているのであれば、わざわざこのような地区を分断したのを使うと混乱が起きると思う。もう少し何か方法を考えていただきたい。</p>
委員	<p>中学校区という案もある。さまざまな案がある中、これを採用して、これをやるということは、時間の都合と事務局は言い、さらに懸念があるとも言ったが、どうであるか。</p>
事務局	<p>事務局としては、地区を分断することによって、後で意見が統一できない心配がある。この都市計画の5地域でなくても、別の区域割りでもできる。</p>
委員	<p>そもそも都市計画マスタープランの5つの区域で、この施設の再配置を考えるのか。これをモデルとして一度シミュレーションをやってみて、全体として20%減らすことができるかどうかを見るための演習をやるのではないか。実際に小学校を減らすとなれば、小学校区ごとに学校関係者と住民がワークショップなどを繰り返しやらないといけない。中学校を減らすのであれば中学校区ごとに会合が要る。この区分で廃止される施設があれば、この区分でワークショップが要る。今回はシミュレーションをするだけであり、ここに住んでいない人による図上の作戦をやるのではないか。</p>
事務局	<p>これはあくまでも1つのシミュレーションということで間違いない。先々、このままこの中でできるのかどうかは別である。当然、総論賛成各論反対ということになるが、実際、これをやっていくに際して、地区でやっていく必要が出てくる。ただ、我々としては、全体の中で、40年間で20%減らしていくという大変大きな命題がある。その後、実際に今後やるときには、基本計画をつくっていくので、その場でまたもう一度やる。</p>
委員	<p>都市計画マスタープランの5区分でやるという件について異議もあったが、さらにどうであるか。</p>
委員	<p>都市計画マスタープランでの分断する区割りよりも、もともとの地区割りを合同で、5分割にすればいいのではないか。</p>
委員	<p>何地区か合同というものも1つだと思うし、私は中学校区もあると思う。</p>
委員	<p>全市的な施設と地区に関係する施設が混在していて、ある地域をしたときに、全市的な施設があり、それが仮に動こうとしているときに、違う判断がその地域ごとに出てきたり、何か違う要素が入ってくることにより、全市的な施設は全市的な視点で見ることが阻害される気がする。私は地域であれば中学校でいいと思うが、全市的に絡まるような施設については、別途、地域を離れたところで議論ができるような要素を入れたほうがいいと思う。</p>

委員	<p>例えば中学校区にした場合、ワークショップの参加者が、その校区の方であれば、総論賛成各論反対になり、20%を削減することを渋られると思う。 更新費用が40年間で818億円かかり、年間にして20億円、そのためには年間7億円が不足するから、面積を削減しないといけない。ここをきっちり示せば、あまり地区割りは考えなくていいのではないか。</p>
委員	<p>小学校、中学校を減らすのであれば、中学校の中に公民館や図書館があってもいいわけである。 そういったことを参加する方にヒントで初めに伝えてあげれば、吸収はいくらでもできる。中学校も減らす、中学校の中に公民館を持ってきてもいい。 大事なことは、金額もさることながら、皆で楽しい街づくりのための、コスト削減というよりも、皆のアイデアを借りて、いい街づくりをしよう、としたほうがいいアイデアが出てくるのではないかと思う。</p>
委員	<p>それは初めに説明しなければいけないが、あまり誘導はしないほうがいいと思う。 まだ区域の問題が解決はしていないが、ワークショップとは何かということや、40年間で20%削減についても説明するのか。次に、どのような立場で参加するかを伝えなければならない。自分の地区だけではなく、他の地区を考えなくてはいいけない。どのような趣旨説明をするのか。</p>
事務局	<p>市から、何のためにワークショップを行っていただくかという趣旨説明は行う。 その中で、今日も議論いただいているが、財政状況の説明もその冒頭の部分で行うと考えている。 また、ワークショップをしていただく中で、こういう前提で考えて欲しいという具体的な説明はその中で加えていきたいと思う。 例えば、ここの区域に住んでいると仮定し、自分で公共施設を減らすことをどう思うかという視点で参加してほしいと具体的な条件を付与した説明はしたいと思う。</p>
委員	<p>財政状況が厳しいから減らさねばいけない。しかし、どれを減らすのかを数値で計算することは、ワークショップの参加者にはできないと思う。 減らしたことによりどのように困るかということをよく考えていただく。子どもを育てている人、若い人、お年寄り、仕事上のさまざまな立場の人、それぞれの立場からシーンを描いてもらいたい。 40年で20%という数字はあるが、それをどのようにして整合させるかをワークショップに求めては駄目だと思う。 もっと大事なことは、なくても構わないものは削るが、もっと豊かにするために付けたほうがいいのかと、物理的なシーンを参加者に描いてもらう。 これ以上なくなったら困るというシーン、もっと楽しい生活ができるというシーンを描いてもらうことが大事であり、それを数値に置き換えたらどうなるかは我々専門家の仕事である。</p>
委員	<p>一番大事なことは、一人でも多く市民の方々にこの審議会で議論していることの基本を理解してもらうことである。 市役所の中でも議論があり、この審議会でも議論があるが、この表「施設分類別基本の方針策定の流れ」は3本立てで、市民の考えがここにある。今のワークショップのつくりもそうであるが、要はものの考え方・つくり方を、市民の方がそこで一つの場面を得て、機能と考え方の議論をする。 それが大事であり、そのための区分けだと思う。だから、今、案が出ている区分けのほうが、適切ではないかと思う。現実の11区域であるとか、中学校の6区域になったときに、その議論がより現実的な話になってしまうため、あいまいな括</p>

	<p>りのほうが機能の議論をすることができる。する場を与えられたということだけである。</p> <p>だから、非現実的な括りでのものの考え方、現実的なつくり方というところで、市民に全体としての理解を得てもらい、例えば「統合」などのそこから出てくる考え方は、この審議会としても報告を受けて参考にできるということだと思うので、私はそういう面では現実の区割りではないほうがいいと思う。</p>
委員	<p>前向きな考えを持った方々がシミュレーションなどに集まると考えている。そこでは、これもあれもと一緒にするようなことはなく、これはあくまでもシミュレーションであると説明すればいい。</p> <p>ただ、その区分けによっては、これから遠い将来、このように分断されるかもしれないという不安を与えかねないと思う。</p> <p>それであれば、別に5つの地区に分けずに、樫原市を1つにしてやればいい。樫原市として、5回でも、6回でも市内としてやればいい。なぜ5つに分けるのか。</p>
委員	<p>5つにした理由として、会議の時間性を考えたと言ったが、それは不足であると思う。中学校区は6つであるため、6つにするという案もあるが、全体的にマスタープランを参考にしてシミュレーションを行う案の話になっている。</p> <p>地域代表で来られている自治会長たちであるので、地域のことを一番知っている。また、この議論はこれで終わりではなくこれから続く議論であるため、全体を把握することが大事である。</p>
事務局	<p>1つの意見であるが、中学校区は学校の再配置の審議会があるので、避けたい。</p> <p>例えば、5地区に分けようとしたら、耳成・多地区で1つ、畝傍・白樫地区で1つ、真菅地区で1つ、金橋・新沢地区で1つ、八木・今井・鴨公・香久山地区で1つにすれば5地区になる。</p>
委員	<p>このワークショップの中では、小学校、中学校の統廃合の話も当然出てくるわけか。</p>
事務局	<p>小学校、中学校の話も出る。</p>
委員	<p>そうすると、児童・生徒数の変化等を全部提示していかなければならない。それは、何らかの状態がなかったら、それを引っ付けなければならないというのは、誰も思わない。</p>
事務局	<p>ワークショップで、例えば、統廃合や施設の必要性を検討する上で、その検討材料としての資料は必要である。</p> <p>施設の状態、稼働率、利用者数、コストなどがなければ、何から検討してもらうのか分からない。</p> <p>当然、評価をした結果も提示し、質問があれば、具体的な数字も提示しながら、検討いただく形になる。</p>
委員	<p>今の話の評価でいえば、教育施設もほかの公共施設も同列になってしまうため、非常に危険だと思う。ましてや、公共施設の中で教育関係が40何%を占めており、20%削減の目玉に上がってくる。一方で、人口減少を防ぐために働き世代の流入をしようと市は考えている。そうなれば、子育て世代の教育や子育ての環境を良くしていかなければ、転入が増えない。その辺りを検討しなければ、これまでと一緒に議論になってしまう。</p>

委員	教育施設再配置検討審議会で議論をしており、数が少ないからこれは減らすという論法で、基本の議論がなされないままに情報が入ることになれば、ワークショップをする必要がない。
委員	<p>ワークショップは、再編を具体的に決めていただくというワークショップではない。市の現状、将来の市の状況、財政的なものなどを含めた上で公共施設をどのように配置すれば良いのかということをも市民目線で考えていただくことになる。</p> <p>市民は自分たちの街のことを考えている。市民が考えるということにおいては、小中学校が入っても全然おかしくない。それは情報として持っていただいて、市民としての立場で、自分たちの小学校、自分たちの中学校、自分たちの子どもの教育を考えれば、当然自ずと議論が出てくると思う。</p> <p>一番大事なことは、多くの小学校では、既に空室が多くあり、今後も増加する可能性がある。それを全く考えないで、公共施設の配置を考えることはできない。市民を信頼し、市民の考えを参考にするわけだから、決定事項ではない。その情報を隠した状態で、学校を除いて議論をするというのは、逆に言うと、市民を信頼していないということになるので、当然それを含めるべきだと思う。</p>
委員	<p>小・中学校は、他の施設と同じような形で全部議論してしまうというような代物ではなく、別な大きな視点があると思うので、基本的には小学校と中学校を外したほうがいいが、ここでそのまま意見として出てくること自体は別に拒まない。つまり、十分な情報・所見を持った人や地域の人が教育施設を対象に議論するため、まずは教育施設再配置検討審議会を主体に考えていただきたい。</p> <p>また、教育施設以外の施設、つまり、学童保育ぐらいの施設ではなく、地域都市間施設がここへ移転してくることも考えられないことはないから、学校の空き教室の有効活用という視点で入るのはいいことだとは思う。</p>
委員	教育でワークショップを実施するのであれば、外せばいいのではないかと。
委員	<p>順番に意見を聞いていく。</p> <p>二つ問題がある。一つは、別途の審議会やワークショップもあるということを前提に学校施設を外すか外さないかという議論。もう一つは、都市計画マスタープランの5区分か、中学校区か、先ほどの11地区を5つに分けた区分かという議論である。</p> <p>意見分布を聞いた後、決まらない場合は、挙手で決めたい。</p>
委員	統廃合の話をしていいけれども、主体は教育でやっているときの、意見を尊重してほしい。他でやっているの、空き教室をどう使うかぐらいはよろしいというようなイメージである。
委員	例えば、2つの学校で50%以上になっているという場合、費用がかかるため、両方をそのまま使うことはできなくなる。片方の学校をもう一方の学校に統合するとか、2つの学校を廃止して真ん中にある土地に統合するとかした場合に土地が空く。どこの市町村でも空地の議論が行われている現状がある中で、それを抜きにして議論をしても全体の議論ができないということが一つある。このワークショップで決まったことを我々がそのまま採用するという話ではない。市の課題を市民として共有する、理解をするという場として、これを設けられているというように理解しているので、そのような面では、学校も含めて考えるべきだと思う。
委員	枠を設けず自由に、結果には拘束されない。みなさんの意見で決まるのではなく、みなさんの提案や進言の中で良いアイデアがあれば、採用していく方法でよい

	<p>と思う。 情報は全部与えないと判断できない。いいアイデアも出てこない。だから全部渡す。教育の統廃合の問題というのは、教育的観点から別次元の問題もあると思う。</p> <p>区割については、11地区を5つに分けた事務局案が良い。</p>
委員	<p>全体から見て、かなり大きなウエイトを教育施設が占めているので、教育施設を入れてワークショップで議論するという事は当然だと思う。</p> <p>先ほどから意見が出ているように、決定するわけではないので、いろいろな意見が出てくることについて我々も参考にしながら議論すれば良いと思う。初めから学校を除くということになれば、非常に範囲が狭くなっていくので、公共施設の中に教育施設を入れるべきだと考えている。</p> <p>地区割りは榎原市全体から考えるべきと思う。</p>
委員	<p>より多くの人の意見を聞くという観点で教育施設も入れたワークショップをされたら良い。区割りは最後に事務局が出した案が良い。</p>
委員	<p>公共施設の話をするときに教育施設を除いたらいけないと思う。ただ、ハード的な部分での資料は提供してワークショップを行ったら良いと思う。学校ごとの教育方針もあるし、地域の思いもあるので、そのようなソフト面も危惧する部分がある。</p> <p>区割りにについては、地域重視でよい。</p>
委員	<p>ワークショップの開催目的から考えると、いろいろな人の斬新なアイデアがほしいので、開催冒頭に制限をかけると意見が偏ると思う。</p> <p>具体的な数字ではなく、空き教室に公民館機能や図書館機能などの斬新な発想も良い。白檀南小学校では、校舎の1棟を榎原市子ども総合支援センターに転用した実績もあり、このような事例も紹介しながら、開催をしたらいかがか。</p> <p>あまり限定せずにされたら良いと思う。区域については、事務局が最後に言われたもので、一番やりやすい方法が良い。</p>
委員	<p>市民にもわかりやすく、専門的なことでなく、変に隠すことなく、後で不信感が芽生えたりしないようにして欲しい。</p> <p>教育関連施設に関しては、評価が低いから統廃合とか廃止に直結するような考えは持っていないと思う。他施設と同様に開示をしていただいて、その中で検討するという形のほうが良い。区割りは、事務局の意見が良い。</p>
委員	<p>区割りは事務局の意見が良い。学校教育場面も一緒に良い。</p>
委員	<p>区割りは、校区別がよく分かるし、その地区の雰囲気もよく分かって良いと思う。教育施設は一緒に議論したほうが良いと思う。</p>
委員	<p>区割りは、地区割りで、校区割りが良いと思うが、中を取って事務局案もということも考えられる。その辺のところを悩んでいる。</p> <p>もう一つの教育施設については、ソフト面については、小学校、中学校、地域の特性などがあるから、ハード面の情報提供のほうが良いかと思う。</p>
委員	<p>地域割は事務局案で結構だ。学校についても皆に従う。</p>
委員	<p>40年間で20%という削減の目的があって、その目的で新しいことをするときには、一旦元に戻して新しいものをつくったら良いと思うので、都市計画マスタープランの5つの案に賛成である。</p>

委員	<p>以上で全員の意見を聞いた。 全員一致はされなかったが、ワークショップでは教育施設を入れるという多数意見があった。 区分については、11地区を5つに分ける案とする。5つの区分けを事務局から再度説明できるか。</p>
事務局	<p>区分けは、耳成、多地区で一つのグループ。畝傍、白檀地区で一つ。金橋、新沢地区で一つ。真菅地区は単独。残る、八木、今井、鴨公、香久山地区で一つ。</p>
委員	<p>区分はこれで良いか。</p>
各委員	<p>了承。</p>
事務局	<p>議題（４）施設評価整理表（案）について 施設評価整理表（案）の説明 【資料５ 施設評価整理表（案）】</p>
委員	<p>これは完成品の案なのか。この４ページ分で終わるのか、イメージがわからない。</p>
事務局	<p>施設評価自体がまだ確定できてない状態なので、現状の集計を見やすくまとめただけのものである。</p>
委員	<p>総括表が１ページで、意味がよく分からないので、もう少し作業を進めてもらって、別途審議したほうが良いと思う。それは、庁内の委員会が施設評価をされる立場になっているわけだから、資料をきちんと揃えて当審議会に出していただかなければ、質問のしようもない。</p>
委員	<p>更新コストについては、次回には出していただけるのか。</p>
委員	<p>資料を出さなければ議論が進まない。施設評価がこういう結果になるがそれでよいかと我々に問い掛けられているのか。</p>
事務局	<p>資料５は最終精査中であるが、このパーセンテージと概ね変わらないと思う。施設評価の最終１、２、３、４のランクのうち、３と４は、何らかの改善が必要というグループが４６％と１０％で、それを足した５６％ほどが、何らかの改善が必要であるということを確認していただければ良いと思う。 施設評価の最終形が出来上がれば、当審議会でも説明が必要になるし、市議会への説明も必要になる。まだ表に出せない段階なので、整理ができ次第説明させていただきたいと思っている。</p>
委員	<p>審議に間に合うように適切な時期に資料を出して欲しいと言うしか今はない。 委員の方々、この段階で、要求したいことがあるか。 （質疑なし）</p>
委員	<p>施設評価を第３回審議会で審議することは可能か。</p>
事務局	<p>可能である。</p>

委員	本日は重要な議論も多く、ご意見も多く出され、有意義な時間となり、お礼を申し上げます。
3. その他	その他について
事務局	<p>第3回審議会は、平成29年11月17日（金）の午後1時半から、場所は大和信用金庫八木支店第一会議室で開催する。</p> <p>第1回ワークショップは、平成29年8月19日（土）の午後1時半から、場所は大和信用金庫八木支店第1会議室で開催する。</p> <p>次回の審議会及びワークショップの日程は改めて案内する。</p> <p>今回の会議録の署名委員は、赤崎会長と本塚委員にお願いする。</p> <p>《終了》</p>